

ビューティフル・ネーム



先日、ある新聞で「大物と『同じ名前』を生きて」という「ラム」を読んだ。

社員のWさんの名前は「姓も名もそれぞれを見れば、決して珍しいものではない。むしろありふれていると言ってもいいくらい」なのだが、「その姓と名が組み合わさると、日本中の誰もが知っている超大物女性タレントと同じ読み方になる」ということにまつわる話である。

Wさんは子どもころはその名前が嫌でたまらなかったそうである。新学期に先生が名前を読み上げるたび、教室に笑いが起こり、クラスメートに名前のことでからかわれるのは日常茶飯事だったという。やがて名前をネタに笑いを取り続けているうちに、クラスの人気者になったが、内心は複雑だったという。大人になった今も、大勢の前で名前を呼ばれる可能性のある場所では、つい身構えてしまうそう。たとえば病院の待合室で「○○○○○○さん」とフルネームで呼ばれると、周囲の人たちがあたりをキョロキョロし始めて、身がすくむのだという。しかし、社会人として働き始めてからは、顧客に初対面から

名前を覚えてもらえたり、新しい職場にすぐに溶け込めたりするメリットも多いとのことだ。そして、「30年以上もつきあってくれば、この名前をいとおしいと思う気持ち」が強いそう。

名前というと思い出すのが、「ダイゴ」というグループが歌った「ビューティフル・ネーム」という歌である。

♪今日も子どもたちは 小さな手をひろげて 光とそよ風と友だちを呼んでる♪

で始まり、

♪だれかが どこかで 答えてる その子の名前を叫ぶ♪

♪名前 それは 燃える生命

ひとつの地球に ひとりずつ

ひとつ♪

と続くフレーズを覚えておられるだろう。

名前は「ひとつの地球に ひとりずつひとつ」であり、その人にとってかけがえのない大切なものである。

筆者もわが子に命名した時のことを振り返ると、専用のノートを1冊作って、たくさんの名前の案を練った。結局は、10

0以上も考えた名前の案の中から、2番目に考えついていた名前に決めたのだが、こんな人に

成長してほしいという願いや辛多かれという思いを巡らせながら、生まれてくる子どもの名前を考えるのは楽しい時間だった。そんな経験をしたら、人の名前には、それぞれの親や家族の願いが込められている大切なものだと思ふようになった。最近の子どもたちの名前には、パソコンで簡単には変換できない、凝ったものが多いように思うが、親の願いが込められた大切な名前である点は、今も昔も変わらないだろう。

「ビューティフル・ネーム」の歌詞はこのように続く。
♪どの子にも ひとつの生命が光ってる♪
♪呼びかけよう 名前を♪
♪すばらしい 名前を♪

子どもたちに限らず、おとな同士でも相手を尊重する第一歩として、その人の大切な名前を大事にして呼びあい、お互いの存在を尊重しあい、温かい人間関係も育みあい、明るく、住みやすい益城町を創っていきましよう。

益城町教育委員会

(JASRAC)

12000106-201

地名の歴史

歴史の変遷と地名

342

飯田山常楽寺②

旧御船町に入る場所に今も「門前川橋」と呼ばれる眼鏡橋が残りますが、これは常楽寺の門前を通る旧木倉街道参道の入り口の橋の意味でしょうし、また、地名に木倉地区に飯田口の小学があり、小字の足水にも門前の微小地名があり、いずれも常楽寺の参道の入り口を意味しています。

また、御船の地名の由来の一つに「飯田山常楽寺創建の際、中国から運ばれた経巻・仏舎利・石塔を積んだ官船が着岸したので御船と称した」「御船町史」とされます。その意味では、飯田山常楽寺は、行政上は益城町ですが、信仰的心情的には、旧木倉村が強いと言えますし。

益城町での信仰に類する地名は、常楽寺門前の飯田村のみです。ただ、益城にも百済渡来の船が転覆し、船野山となり、乗組員を祀ったのが木崎荒帆宮との伝承があり、その物語は「常楽寺檜縁起」として残されています。常楽寺の宗教圏

は、「この檜縁起に見られるように荒帆宮を東限として、朝来山の尾峰山福田寺の宗教圏に対したようです。しかし、益城側にも信仰地名は少なくても「一丁地蔵」と通称される信仰の象徴である石仏が土山から常楽寺への参道に沿って祀られています。「サントリー九州熊本」前の小豆坂が土山の参道入口と交差する場所にある六地蔵(現在建立者子孫の坂本家の敷地に安置)と言われますが、六地蔵の前の道沿いにも追分け地蔵があります。この六地蔵は「従是本堂二十五町坂本桂衛門、坂本手伝七、安見村石工半兵衛、嘉永二己酉年五月十日」(アマチユアの春秋)とあり、一丁地蔵の起点はここからとされます。

益城町文化財を訪ねる会

会長 松野國策



土山の坂本家敷地内の六地蔵